

令和2年2月17日

浜田市議会議長 川神 裕司 様

議員名 布施 賢司



調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 令和2年2月2日(日)～4日(火)

2. 調査研修内容

第29回北前船寄港地フォーラム in 鹿児島

『明治維新の力・北前船で広がる交流の輪』

～令和の新たな輪は海を越えて～

第30回北前船寄港地フォーラム in 浜田(3月13、14、15日)

『歴史・文化を生かした地域活性、地方の観光新時代』

前開催地視察調査及び交換交流で浜田市のPRと来場を呼びかけ

3. 研 修 先

鹿児島県鹿児島市 人口595,161人 面積547,58km

4. 調査経費 57,916円

(経費内訳: 浜田市⇔広島駅⇔鹿児島駅⇔フォーラム会場)

交通費(新幹線代) 36,010円

交通費(車移動費) 6,106円

宿泊代 15,800円

5. 調査研究活動の概要

別紙のとおり



【調査研究の概要】

- ◆ 平成 19 年から始まった本フォーラムは、海を越えて発展を続けており、今では 45 の自治体が日本遺産に認定されるなど、北前船をキーワードとした取組は、地方創生を進める上でも大きな広がりを見せている。(平成 30 年 5 月、新たに 27 の自治体が追加認定されており、浜田市の外ノ浦もその一つである) 各自治体関係者や旅行、輸送会社、市民も交え、800 人規模 (中国、大連市は新型コロナウイルス問題で急きょ欠席) で開催された。

関係人口の拡大。

- ◆ 鹿児島においては、江戸時代に財政が苦しかった薩摩藩において、北前船が蝦夷から調達した昆布を入手し、琉球を経由して中国に輸出することによって財政を立て直し、後の明治維新につながったとされている。(薩摩藩は幕府が鎖国をしていたにもかかわらず、幕府の許しを得て、中国との交易が盛んだった琉球王国を管理下に収める。国内外の情勢変化によって長崎貿易が不況となる事態に備えて、長崎貿易を補助させる目的で薩摩藩による琉球口貿易の存続を認めた)

薩摩の歴史と文化



*会場入り口では、かごしま親善大使とゆるキャラがお出迎え



*城山ホテル鹿児島、フォーラム会場

プログラム

第一部、 オープニングアトラクション 維新ダンス (鹿児島実業高校男子新体操部)

パネルディスカッション テーマ「北前船と鹿児島」5名の有識者

第二部、 アトラクション舞踊「北前船が伝えた“九州ハイヤ節”ここ薩摩に集結する」

* 主催者挨拶 実行委員会会長 (鹿児島市長) 森 博幸氏

北前船なくしては、明治維新、ひいては日本の近代化は成しえなかったかもしれず、九州初となる鹿児島市でのフォーラム開催は誠に意義深い開催である

「今、歴史を正しく見ることが大事であり、正しく評価することが大事である」

* 共同宣言採択

* 基調講演① テーマ「D&S 列車で九州を元気に」 青柳 俊彦氏（九州旅客鉄道(株)）
今回、鹿児島市は準備・運営をすべて日本旅行（エージェント）に任せていた。

* 基調講演② テーマ「なぜ薩摩は強い国か」 磯田 道史氏（歴史家）



「郷中教育（戦国実利）があったから」
薩摩藩伝統の縦割り教育があり、先輩が後輩を指導することによって強い武士を作ろうとする組織、今で言えば町内会単位の自治会組織、郷中を作り、その中で精神を徹底した。

BS「英雄たちの選択」出演中で著名人でもあり、抽選によって大勢の市民も講演を聞き入った。

* レセプション（今後の開催地挨拶） 3 月第 30 回浜田市 ? 月第 31 回秋田市



久保田市長より次回開催地の案内
全員お揃いのハッピを着て登壇



石見弁で「待っとるけ〜！浜田にきんさいや〜」
氣勢を上げて会場を盛り上げました

* 2 日目は屋久島町のエクスカーションに参加(寄港地フォーラムとセット申込)

【所 感】

森市長の言葉通り、北前船なくしては、明治維新、ひいては日本の近代化は成しえなかったかもしれず、九州初となる鹿児島市でのフォーラム開催は誠に意義深い開催となった。平成 30 年 5 月に日本遺産に「外ノ浦が追加認定」され、開府 400 年記念事業の最後を飾るイベント（3 月 13, 14, 15 日）を、節目である第 30 回北前船寄港地フォーラムを浜田市で開催できることは、江戸時代中頃から明治 30 年代にかけてあった、北前船によりもたらされた地方間交流が、寄港地フォーラムで今再び地域間交流が活性化し、関係人口拡大産業振興にも繋がっていくのだと強く思いました。

又、構成文化財には含まれていませんが、会津屋（今津屋）八衛門は、浜田藩の財政を立

て直すことを密貿易ではあるものの実行し、海外に目を向けた船頭で薩摩藩の貿易の話
を聞いて、夢を持って荒波を越えた男の1人だったと改めて思いました。

磯田氏が薩摩のお菓子が、石見地方にもある「下駄のは」は北前船で繋がっていることも
紹介され、昔、石見銀山に「下駄のは」を作る老舗があったことを思い出しました。

最後にフォーラムを実施する側として大変な準備が行政や関係者は必要ですが、身の丈に
あったフォーラムを開催し、「来てよかった」と言われるように、関係者と一緒になって私
もしっかり「おもてなしを」をする決心です。